

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

April / 8 / 2022 # 109

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『アンケートへの回答で困った』

[2] Pepeのひとりごと

『音出し（ルーティーン）』

[3] おすすめ動画

『Masterclass - Alain Trudel』

『WCTB x Shires: Pedagogy and Performing, A Masterclass with Shires Artist

Joseph Alessi』

[4] 演奏のヒント！

『いろいろないい演奏をたくさん聴こう！』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『アンケートへの回答で困った』

少し前、面識のないスペインのEuphoniumの生徒さんからメールが届き、アンケートへの返答をお願いされました。

内容は、P.Sparke氏の作曲したEuphonium Concerto No.3, "Diamond Concerto"について。

YouTubeで僕のこの曲の演奏を聴いて、「演奏したことがある人」として

質問が来たのだと思われます（2012年に、日本初演をやりました）。
時期的にも、大学の卒業論文用なのでしょう。

まあ、シンプルな質問が並んでいたのですが、その中で、うまく
答えられなかった質問がいくつかありました・・・。
それらは、

「この曲を演奏するにあたって、どのようなウォームアップをしますか？」
「この曲を演奏するにあたって、技術的に難しいポイントはどこでしたか？」
「どのパッセージが一番難しかったですか？また、それを克服するために
どのような練習をしましたか？」

というような質問。

僕は、常に（特に大きなコンサートや曲の準備をしているとき以外）

「いつ、どのような曲が自分の目の前に現れてもしっかりと
対応できるよう」に練習を重ねています。

これまで見たことのないような難しいものへ対応できるよう、自分の
持っているエチュードを見直していったり（最初にやった頃に比べると
容易さが増えるとともに難しさの見え方が変わってきています）可能な
範囲で持っているソロの曲をさらい直したりしています。

そうしていると、ここ数年は「演奏できるようになるのが難しい」と
感じるものにほとんど出会っていません（もっといろいろなものに
チャレンジしていったほうがいいのかもかもしれませんが・・・汗）。

なので、上記の質問への回答に困りました・・・。

きっと質問者は、回答者が難しい箇所を挙げて、それを克服していく
過程を知りたかったのだと思うんです。

残念ながら、この曲だけでなく記憶にある限りそれほど難しいと
思うものに出会うことがなかったので、今回のアンケートの回答としては、

「少し大変な（難しい）ことをやりながら、いかにいい音楽的な
フレーズを作っていくのか、ということには苦労をしました。いろいろな
音楽的なアイデアを出しながら、少しずつフレーズを作っていく、
最終的にそれらを書かれたように組み直してやってみました」

というような返事をしました。

質問者にとっては的を得ていない回答で困るだろうと思うのですが、
仕方がなくこのような回答をしました。

自分自身にも、レッスンなどで関わる生徒さんたちにも、僕は常に
「今」のためだけでなく、「これから先」にとっても必要な練習を

していきましょう、というようなことを伝えています。
そうじゃないと、新しい曲で大変なものに出会ったとき、それを克服することだけに囚われて、その曲の持つ音楽的なより重要なことに目が向きにくくなってしまうからです。
事前にある程度のテクニックを備えていれば、部分的に難しいところにもあまり時間や労力を使うことなく、その曲の持つ本質に目を向けることができる僕には信じています。

このやり方でこれまで苦労したことはなかったのですが、今回のアンケートへの回答で初めて困ってしまいました（笑）。

ちなみに、僕は普段から「難しい」という言葉は使いません。
生徒さんたちにも極力使わないように伝えています。

長くなってしまったので、これについては次回書きますね！

[2] Pepeのひとりごと

『音出し（ルーティーン）』

毎日の練習の最初、「音出し（ルーティーン）」には、プロ・アマ問わず各々の性格がよく表れるように僕は感じています。
几帳面な人、豪快な人、丁寧な人、大雑把な人、何事にも意味を見つけて取り組んでいる人、ただやれと言われたことを特に細かく考えないでやっている人、などなど（笑）。

中にはマイナスな意味に聞こえてきそうなものもありますが、僕は決してそういう意味で書いているわけではありません。

音出し、ウォームアップにはとても重要な意味合いがあると思っています。
それは、その時やることとしてもそうだし、それらを毎日繰り返しやり重ねていくこととしても。

「自分のどこをどのように修正していきたい」とか「もっとこうありたい」ということをみなさん大なり小なり持っていると思います。

中には、思い通りにいかないことを自分の性格のせいにしてている人もいるかも??

もしそういう「少しでも改善したい」という気持ちがあるのであれば、ぜひ音出しを少し変えていくことからやってみませんか？

例えば、消極的で、音の出だしで思い切った感じで入れない、ということならば、そのような曲をやらないときでも、音出しのとき常に

はっきり目、大きめの音量で吹くようにしてみる。
ここで、最初に書いた「大雑把な人」や「特に細かく考えないでやっている人」のいいところが表れてきます！（笑）

消極的な演奏の人は、多くの場合普段から消極的な性格の人が多いと思います。

それを「自分の性格だから」と諦めないで、最初は大げさ気味に乱暴なイメージを演じてみるんです。

そうすると、これまでやったことのなかった息の吐き方、吸い方を見つけることにもつながってくると思いますよ。

逆も同じです。

音が荒いとよく言われる、という人がいれば、毎日の1つ目の音から丁寧に音を出してウォームアップをする、など。

曲の中でできないことを曲の練習のときだけがんばっても、なかなかできるようにはなりません。普段やっていることからできることを増やしていくほうがうまくいきやすいと僕は思っています。
ぜひ、やってみてくださいね～！

なんだか、今月のひとりごとは「演奏のヒント！」のようになっています。

[3] おすすめ動画

『Masterclass - Alain Trudel』

<https://www.youtube.com/watch?v=MAiBgtDYZes>

今月は、偶然にもオンライン・マスタークラスの動画が2つあったので、それらを紹介しますね。

まず1つ目は、Alain Trudel氏のもの。

日本では、特に若い人たちの間ではあまり知られていないように感じているのですが、僕たちやその少し上の人にとっては決して忘れられない存在の一人です。

AlainはカナダのTrombone奏者で、モントリオール交響楽団で首席Tromboneとしても活躍していました。

今はTrombone奏者としてだけでなく、指揮者としても活躍しています。

僕は一度フィンランドで彼のマスタークラスを受けて何回かレッスンも受けたのですが、それ以降、ずっと僕の演奏のベースになっていることが彼の教えからすごくあります。

とても頭がいい人で、付いていくのだけで必死な部分もあったり

しましたが、今彼が指揮もしている、ということには何の疑問も持ちません。

あれだけいろいろな知識があれば、と思っています。 :D

彼はYAMAHAアーティストなので、いつか日本で一緒に何かやりたいと強く思っています！

いつか実現するぞ〜！！

P.S. 彼、早口なので聞き取るのが大変ですね・・・（汗）。英語だとまだいいのですが、彼がフランス語で話すとき、もっと早口で僕はわからなくなり、会話の途中で「ごめん、英語でお願い」と言ったことがあります（笑）。

『WCTB x Shires: Pedagogy and Performing, A Masterclass with Shires Artist Joseph Alessi』

<https://www.youtube.com/watch?v=J89jGUugNqs>

2つ目の動画は、みなさんご存知、New York PhilharmonicのJoe Alessi氏のマスタークラスです。

実は、今回の動画2つとも、僕自身はまだ全部観ることができていません・・・。

自分が観ていないのに「おすすめ」なんて書いていいのかな・・・と自分でも少し思いましたが、この2人のものなら間違いない！と思って載せちゃいます。 ;)

僕も必ず2つとも観ますよ！（きっと来月号のときにはどちらも観ておくようにしておきます・・・どちらも長いけど）

みなさんも、少しずつでもいいので観ていきましょうね！

[4] 演奏のヒント！

『いろいろないい演奏をたくさん聴こう！』

今回は、少しこれまでとは違う視点で。

みなさん、普段からいろいろないい演奏を聴いていますか？
もちろん一番いいのはコンサートで生で演奏に接することですが、毎日是不可能よねえ。

CDなどの音源を日常から聴いている人は、どのくらいいるのでしょうか？
また、そのよく普段から音楽（音源）を聴いている人の中で、クラシック音楽、またオーケストラの曲、管楽器のソロの曲、それぞれをどのくらい聴いているのかも人によって全く

異なってくると思います。

ここでは少しターゲットを絞って、専門的に管楽器を勉強している人へ向けて書いてみます。

今、世の中にはたくさんの管楽器のソコのCDや音源があります。この30年くらいで格段に増えてきたと思います。

たくさんいろいろな人、楽器の演奏を聴くことがとてもいい勉強（参考）になるのでぜひやってもらいたいのですが、その中でも今日は、繰り返し聴くことについて書いてみようと思います。

今のように音源があまりない状況のときに僕は毎日いろいろな音源を聴きながら過ごしました。

世の中に出ているCDもあまり多くなければ、もちろん自分の持っているCDもかなり限られています。なので、必然的に同じものを何回もリピートして聴いて過ごしました。

ある日、今の（若い）人たちは、このたくさん音源がある世の中で、このようにある特定の物を繰り返し聴きながら過ごしていることをするのかなあ？と疑問に思いました。

というのも、先日、久しぶりにフランスのTrombone奏者、Michel Bequet氏の最初のソコCDを聴いてみたのですが、すべての曲のフレーズ感、ブレスの位置、アーティキュレーションなど、全てが自分の体の中に入っていることに驚きましたからです。

これは、覚えようとして聴いて手に入るものではなく、毎日毎日何回もリピートをして聴いていたからこそ体の中に染み込んでいったものだと思います。

みなさんにとってそのような音源ってありますか？

実は、少し前に、本当に久しぶりにSam Pilafian氏やGene Pokorny氏のCDを聴いたときにも同じように感じました。

僕がこれらのCDをアホみたいに（笑）毎日リピートをして聴いていたのは中学、高校の時なので、今から30年くらい前のことなのですが、何十年かぶりに聴いてもそのほとんどが記憶にあったことに驚いたとともに、今の自分の音楽性（フレーズの作り方やブレスのとり方など）はこれらを基礎に成り立っているのだなあ、と思いました。

年月が過ぎないとわからない、気づかないことかとは思いますが、ぜひ、今音楽を専門で勉強している若い人たちには、いろいろな音源を

繰り返し聴きながら過ごして行ってほしいと思います。

編集後記

なんと、今月号でこのメールマガジンも10年目に突入するようです！

いやあ、何人の人が読んでくれるのかもわからないのにやり始めて、コツコツとよく続いています（今月号は、実は今朝になって書き始めました・・・汗）。

内容のネタは、思いついたときにメモをしているのでストックはあるのですが、書く時間が思ったように取れなくてうまくいかないのは、9年経っても変わっていませんねえ（笑）。

10年目ということで、目標として、前の日までには書き終わる！ということが続けられるようにがんばってみようと思います（今も、半分以上は前の日までに書き終えていると思うのですが、こうして当日に書くことがあると焦ってしまいます）。

こうしてコツコツと9年も続けてこられたのも、購読してくれているみなさんがいてくれるからです。

本当にありがとうございます！

これからもあまり背伸びはせずに、無理のない自分のペースで続けていこうと思っていますので、これからもよろしくお願いします。また、周りに興味のある人がいれば、ぜひこのメールマガジンの宣伝もお願いしますね。:D ;)

最後に、（文面での限界はあると思いますが）何でもいいですので、質問などにもお答えする準備はできています！

下記のメールアドレスに、何でもいいので気軽に質問もしてきてくださいね！

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com

©阿部竜之介 『Pepeの視点』

のバックナンバー、配信停止はこちら

<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>